

2018 A 日程 LS [0819]

受験番号

2018 年度 甲南大学法科大学院入学試験問題

## 専門論文試験

### 商 法

(60分)

#### 受験についての注意

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはならない。
2. 問題は1ページのみである。印刷不鮮明、汚損等があれば申し出ること。
3. 解答用紙は1枚である。解答用紙には裏面もあるので注意すること。
4. 答案は、横書きとする。
5. 答案は、実線内の番号に従って書き進めること。
6. 答案は、黒ボールペン（但し、フリクション等の消せるボールペンは不可）または黒インクの万年筆で記入すること。これら以外で記入された答案は、無効となる。
7. 答案を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、その次に書き直すこと。
8. 下書きには、問題冊子の余白を適宜利用すること。
9. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

## 専門論文試験 商法

### 【問題】

以下の【事例】を読んで、〔設問〕に答えなさい。

### 【事例】

P株式会社(以下「P社」という。)は、普通株式のみを発行する監査役会設置会社で上場会社である。P社は単元株式制度を採用しておらず、発行済株式総数は100万株である。P社は2017年6月23日に定時株主総会の開催を予定していた(以下「本件株主総会」という。)。本件株主総会の決議事項は「第1号議案 剰余金の処分の件」及び「第2号議案 取締役5名選任の件」の2つである。本件株主総会の招集に先立つ同年3月頃にP社の総務担当取締役Yは、P社株式5000株を保有する株主Aが株主提案権(議案要領通知請求権)を行使しようとしているとの情報を得た。本件株主総会が混乱することを懸念したYは、2017年5月1日に独断でAと面会し、株主提案権の行使を見合わせるように申し入れた。これに対してAは、親族の経営するQ社に100万円を寄付してくれるなら、再検討しないでもないと回答した。Yは自らの権限により決裁できる金額であったため、この申入れを受け入れた。同時にYはAに対して、このことを他言しないこと、本件株主総会の会社側提案の全てにAが賛成票を入れることを依頼したところ、Aはいずれも快諾した。その日のうちにYの指示によりP社からQ社に対して100万円が送金された。本件株主総会では、Aにより株主提案権が行使されることはなく、全ての会社側提案が賛成多数で可決された。

### 〔設問〕

上記【事例】の中で会社法上問題となる論点を挙げて検討を加えよ。